

令和3年度 第1回米子市図書館協議会・会議録（概要）

○日時 令和3年5月31日（月） 午後2時から午後3時30分まで

○場所 米子市立図書館 多目的研修室1・2（2階）

○出席者 委員

渡邊 眞子、辻田 賢次、笠井 和観、福田 知浩、卜蔵 久子、坂口 浩子
宇田川恵理、中井 康恵、原 篤成

事務局

（米子市立図書館）矢木館長、（一財）米子市文化財団 佐藤図書課長
（米子市教育委員会）木嶋生涯学習課担当課長補佐、若林主幹

○欠席者 野上 亜紀

○傍聴者 2人

○報道関係 なし

【協議会の概要】

開 会

— 事務局より開会

会長挨拶

— 渡邊会長からあいさつ

事務局

— 新規委員紹介・事務局及び図書館紹介

渡邊会長

では、1番目の「（1）新型コロナウイルス感染症の影響について」の説明をお願いします。

矢木館長

昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4月14日から5月6日までの23日間臨時休館としました。5月7日から5月30日までは開館時間の短縮などの制限を設けて再開しました。6月からは開館時間を通常の時間に戻しましたが、各種事業・イベントの中止が相次ぎました。最大のイベントである「図書館まつり」も混雑による密を回避するため中止としました。

この間、感染防止対策として、換気と消毒、手洗い・マスク着用の徹底などを行っており、現在も継続しています。また、毎日午前と午後の2回、館内放送で注意喚起を行っています。今年度に入ってから、新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度の状況と比較しても、来館者・貸出冊数などは戻っていない状況です。

渡邊会長

みなさん質問がありましたらよろしくをお願いします。無いようですので、次に「（2）令和2年度事業報告及び決算について」の説明をお願いします。

矢木館長

令和2年度の図書館実施事業等についてですが、資料2の5ページの合計欄を見ていただくと、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施回数・参加人数とも令和元年度と比較して減少しています。実施回数が令和元年度の284回に対して令和2年度は218回、参加人数が令和元年度

9490人に対して令和2年度は2798人となっています。これは、図書館まつりや各種例会・おはなし会などの中止が大きな要因となっています。

また、5ページの【編集・発行物等】の欄に記載していますが、年度末に「米子市立図書館30周年記念誌」を発行しました。5ページ下から6ページにかけての【職員研修】も、令和元年度と比較して、回数・参加人数とも減少しています。

渡邊会長

それでは、質問がありましたらお願いします。

中井委員

3ページのブックスタート支援事業について、4月と5月は中止、あとの月はやっているような記載がありますが、私はブックスタートの読み聞かせのボランティアをやっていて、ボランティア活動は中止になったと認識しているが、どのような形で実施されたのですか。

佐藤図書課長

ブックスタート支援事業は、市の健康対策課が主催となっていて、健康対策課から集団指導の方でブックスタートの趣旨や読み聞かせの依頼があり、図書館が関わらせてもらったものです。

中井委員

図書館の方が読み聞かせをされたということですか。

佐藤図書課長

そのとおりです。

ト藏委員

ブックスタート支援事業についてですが、ブックスタートももうだいぶ長くなってきていると思います。そろそろブックスタートからセカンドブックに移行してもいいのではないかと考えています。ただ絵本をもらって帰るのではなく、絵本を市立図書館や児童文化センターで借りれる道筋をつけるためのセカンドブックにもって行ってほしいと思います。

福田委員

いろいろな事業が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となっていますが、事業実施の有無について、図書館なり市の方で明確な基準はあるのでしょうか。また、実施の有無については、ホームページ等で広く市民の方に知らせていくという理解でいいでしょうか。

佐藤図書課長

4月から5月は、臨時休館となっていたり制限を設けての開館であったため、基本的に中止としています。それ以外の月は、共催事業などは、相手方との協議により実施の有無を決定しています。広報については実施の有無が決まった時点で、ホームページでお知らせしています。

ト藏委員

米子市は新型コロナ対策の基準として、例えば県は半分出勤、半分在宅で業務をされていますが、米子市の明確な基準があれば教えてほしいと思います。

矢木館長

米子市の場合、職員の出勤・在宅勤務については、各部署において可能な範囲で実施している状況です。図書館内の行事等については、明確な基準は設けていませんが、だいたい通常の収容人数の半分くらいの参加人数で実施しています。

ト藏委員

それぞれの部署で開催を決定しているということですか。

事務局

例えば公民館の例で言いますと、指標のステージ3であれば収容人数の半分程度という利用制限を設けています。ステージの状況を見て判断しています。

ト藏委員

図書館は特に昼に人が多いが、ソファに隣同士で座っているのを見れば、米子市は警報が出ているのに、基準が明確でないのは不思議に思ったので聞いてみました。

笠井委員

コロナ対応として、図書館での催し物等で県外の方に講師を依頼される場合の状況はどうなっていますか。

矢木館長

今年の4月以降は、県外の方に講師を依頼する場合は、リモートで実施しています。今後も、県外の方に講師を依頼する場合は、リモートで行っていきたいと考えています。

矢木館長

次に資料3 7ページの令和2年度図書館費の決算について説明します。

令和2年度の決算は、予算額136,661,000円に対して135,441,453円の決算額となっています。予算額と比較して過不足の大きいものは、図書館運営経費の修繕料が254,864円の不足となっています。これは、誘導灯ランプの取り替えやエアコンの修理など突発的な修繕が発生したため予算に対して不足となったものです。これについては、他の費目からの流用で対応しました。また、同じく図書館運営経費の器具借料の505,100円の残については、マイクロフィルムリーダーを再リースしたことによる残です。全体としては概ね予算額どおりの決算となっています。8ページには資料3の参考資料として、米子市文化財団への委託料の明細を載せています。

渡邊会長

資料3について何か質問はありませんか。

中井委員

図書館費の決算明細書となっていますが、通常であれば、予算というのは収入がいくら支出がいくらとなっていると思いますが、収入が載っていないのはどうしてですか。

矢木館長

資料については昨年度までと同じ形で作成していますが、図書館費の収入を載せていないのは、おそらく収入のほとんどが市の一般財源いわゆる税金で、図書館としての収入は、利用者カードの再発行手数料などごくわずかな額なので、これまで載せていないのだと思います。

中井委員

少額であっても、施設の利用料などもあると思いますので、載せておくべきだと思います。収入・支出が目に見える形で出てこないと思念が生じると思います。

矢木館長

今後は記載するようにします。

ト藏委員

図書館費は米子市の財源だと言われたが、指定管理で米子市文化財団が委託を受けて、その米子市文化財団から図書館に運営経費がきていると思っていましたが、米子市が一般財源を直接図書館におろしているということですか。

矢木館長

決算明細書の図書館運営経費の中の文化財団委託料は、米子市文化財団に図書館の管理運営の委託料として支払いをしているということです。指定管理料として支払いをしているわけではなく、直営ということで管理運営を米子市文化財団に委託しているということです。

渡邊会長

今のご意見は完全直営にしてほしいということだと思います。ちょっと飛びますが、18ページ一番下のところに、事務局経費が令和2年度が委託料の5%となっていたものが、令和3年度は7%と2%アップとなっています。この財政難の折に、なぜ2%もアップすることができたのか疑問に思うことがあります。これについてはあとで説明をお願いします。

他にありませんでしょうか。

辻田委員

租税公課の欄に消費税となっていますが、これは図書購入にかかるものですか。

矢木館長

租税公課は、図書購入費にかかるものではなく、米子市文化財団という組織、法人にかかるものです。

渡邊会長

市民の大切な税金を使っているということもありますので、次回詳しい明細をご提示いただけたらと思います。

次に「(3) 令和3年度事業計画及び予算について」説明をお願いします。

佐藤図書課長

資料4をご覧ください。米子市立図書館の7つの運営方針に基づく施策となっています。内容としては令和2年度に引き続いた内容となっています。本年度は引き続き新型コロナウイルス感染予防を徹底しながら、安心安全を第一に考え、資料提供と市民の学びや成長を支援する図書館として、関係機関や地域の皆様とともに取り組んでいく考えです。運営方針は平成29年度に策定し今年で5年目となります。

運営方針1「学べる図書館づくり」として、市民のニーズに応える資料を選書し、蔵書として構成し、一般書、児童書、郷土資料、行政資料の収集、保存、提供に努めます。次に地元書店と連携した図書購入の充実ですが、令和元年度より地元書店の育成と司書の選書能力の向上、地元書店と図書館との連携強化を図る目的で、地元書店からの購入割合を増やしています。今年度も地元書店との連携を密にしながら、市民のニーズに応えられるよう資料の充実を図っていきます。

運営方針2「役立つ図書館づくり」については、今年度は特に「健康情報コーナー」「健康長寿コーナー」の充実、リニューアルに取り組むこととしています。「健康情報コーナー」では、30項目の病名に分けて本を収集し、病気の治療法や闘病記についてコーナーを設置していますが、特に認知症やガンの分野の資料については利用者の必要としている内容を調査して、コーナーの充実を図っていきたくと考えています。「健康長寿コーナー」の本も7つの項目に分けて本を収集していますが、本の見直しと高齢者の趣味を充実させるような本や音読の本の充実を図っていきたくと考えています。国会図書館の協同データベースですが、その活用とレファレンスの内容をアップするというのも積極的に行っていきたいと考えています。

(以下 資料4 12ページから16ページまでの 2主要事業等の内容について説明)

矢木館長

令和3年度予算について説明します。資料5の17ページをご覧ください。

令和3年度予算は、140,988,000円で前年度と比較して4,327,000円の増となっています。増額となっている主な要因は、米子市文化財団への委託料の増で、委託料の中の人件費・事務局経費が増えています。18ページの一冊下に記載していますが、事務局経費については、令和2年度は租税課を除いた委託料の額の5%としていましたが、令和3年度は7%としています。これは、米子市と米子市文化財団が協議して決定されたものです。事務局経費については、図書館だけが支払うものではなく、米子市が運営を委託している文化ホールや公会堂、美術館など様々な施設が分担して支払うこととなっています。

渡邊会長

今の説明について質問はありませんか。

ト藏委員

米子市文化財団への委託料の事務局経費は、図書館だけでなく各施設が払っているということですが、直営にすれば安くなると思います。こういったことが、我々はこのような場で知ることができませんが、市民には周知されていません。誰にでももっとわかりやすい会計処理をしてほしいと思います。

渡邊会長

図書購入費はわずか20万円のアップなのに、米子市文化財団の事務局経費は2%の引き上げというすごい金額です。何でこの時期にという疑問が残りますので、説明していただけたいと思います。

次に、9ページの地元書店と連携した図書購入の充実についてですが、これまではほとんどTRC(図書館流通センター)から購入していたと思いますが、地元書店から購入するのが筋だろうと思います。県立図書館は100%すべて地元書店から購入しているのに、米子市立図書館もすべて地元書店から購入しているのではないかと思います。今地元書店からの購入割合は何%ですか。

佐藤図書課長

昨年度は7割です。地元書店からの購入は大事なことだと思っていますが、地元書店の注文から発注、納入までの体制が十分に整っていないところもあり、リクエストなどの早急に取り寄せたい本に限りTRCに発注しています。TRCは本が発行されるとすぐに納入されるので利用しています。それによって利用者の方へ早くスムーズに提供できるようになっています。

中井委員

地元書店ということですが、これは地元のすべての書店と解釈していいですか。

佐藤図書課長

通常発注している書店は4社です。

渡邊会長

他にありませんか。

宇田川委員

昨年度の2回目の本協議会の時に、コロナの影響でなかなか集まるのが難しいということで、Zoomなどのリモート開催も検討していきたいという話がありましたが、本年度の事業についてはどうですか。また、Zoomとかでやるということになれば契約とか出てくると思いますが、どうですか。

佐藤図書課長

昨年度、鳥取大学と共催で、サイエンスアカデミーという講演会をZoomで毎月1回開催しました。費用は発生していません。本年度は、「いわむらかずお講演会」をZoomで開催する予定としています。職員研修会では、昨年度、愛媛県での中四国研修大会と全国図書館大会の和歌山大会を無料でオンラインで受講しました。

宇田川委員

米子市立図書館が主催者として、Zoomを使った催し物などを検討される予定がありますか。

佐藤図書課長

今年度は、「いわむらかずお講演会」がZoomによる講演会で、主催事業となっています。

渡邊会長

今の話に関連して、何年も言い続けていますが、Wi-Fiを入れてほしいと要望しています。米子市は公共施設にWi-Fiを入れていません。このリモートの時代に時代遅れとなっています。今、学生たちはIpadをもって授業に参加しています。米子市立図書館で調べ学習をしようとしても、Wi-Fiが飛んでいないので仕方なく自分の携帯を有料で使わざるを得ないという状況です。Wi-Fiを入れてもいいのではないかと思います。先日図書館関係者と集まる機会があって、今度境港市民図書館がリニューアルされますが、Wi-Fiは当たり前だということでした。そこに参加されていた近隣の図書館の方も「米子市立図書館にWi-Fiが入っていないことにびっくりした。Wi-Fiは必需品じゃないか。」と言われました。私もWi-Fiが接続されていないことに歯がゆさを感じています。どうか前向きに考えていただきたいと思います。

それでは次に「(4)米子市立図書館の現状について」説明をお願いします。

矢木館長

その前に、19ページの資料6をご覧ください。近年の図書資料費の推移を載せていますが、これにつきましては、平成30年度から毎年20万円の増額となっています。令和3年度も前年度から20万円の増額となっています。

それでは次に20ページをご覧ください。まず蔵書冊数ですが、毎年2~3%台の伸びをみせており、令和2年度末では339,963冊となっています。また、児童図書冊数についても順調に伸びており、令和2年度末では84,520冊となっています。蔵書冊数のうち児童図書が占める割合は、概ね各年度約25%で推移しています。

次に貸出冊数については、3年連続で2%台の伸びをみせていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は600,433冊で、前年比マイナス12.3%となっています。

来館者数については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により休館したこともあり、前年比マイナス27%の235,504人となっています。

他都市との比較では、本市の蔵書数は人口1人当たり2.2冊で他都市と比べると平均を下回っています。また、貸出冊数は4.5冊とほぼ平均並みで、同様に図書購入費の予算についても平均並みとなっています。一方で、所有する図書が何回貸し出されたか(貸出冊数/蔵書冊数)をみると、本市は2.1回で、県内平均1.4回、山陰12市平均1.2回、中国地方の平均1.6回で平均を上回っている状況です。そのほか、登録率は51.6%で他都市と比べて高い登録率となっています。

渡邊会長

今の説明について質問等ありますか。

宇田川委員

23ページの利用状況のところの分類別貸出冊数で、語学の分野だけ極端に低い数字となっていますが、何か分析はされていますか。

佐藤図書課長

語学の貸出冊数には、いわゆるNDCの800番台のものを載せていますが、そのほかに外国書の収集もしてまして、それも語学の分類に入ると考えていますが、特に分析には至っていません。

渡邊会長

他都市との比較で、米子市の登録率は51.6%となっていますが、それでひと安心ということではなく、全国には100%に近いところもあります。税金を使って本を収集しているということもあり、市民の方に広く本を使っていたらいいので、登録率がもう少し伸びるといいのではないかと思います。

それから、米子市は図書館が1館しかありません。この1館を充実させることはとても大事なことだと思いますが、蔵書数が増えている中で、書庫は満杯の状態になりつつあると思っています。そろそろ本気になって分館の必要性について協議してもいいのではないかと思います。遠方から来られる方にとって使い勝手が悪いのではないかと推察しています。意見として取り上げていただけたらと思います。

最後に「4その他」について何かありましたらお願いします。

矢木館長

特に図書館の方から案件はありません。

渡邊会長

最後にせっかくお集まりですので、委員の皆さんから一言づついただきたいと思います。

辻田委員

コロナで大変な時だと思いますが、感染対策をしっかりやって、図書館の運営をがんばっていただきたいと思います。

宇田川委員

米子市立図書館は近隣の図書館に対して大きな影響力を持っていると思いますので、是非がんばっていただきたいと思います。

中井委員

図書館の方には、こういう状況の中ががんばっておられること頭が下がる思いです。さきほど会長さんからもありましたが、図書館に行くと貸出し書架になくて、書架の状況がどうなっているかいささか心配しています。分館の設置について考えていただきたいと思います。

原委員

米子方式の物流システムを利用させていただいて、子どもたちの読書支援に役立っています。貸し出しもフル回転ということで感心しています。ふるさと米子探検隊なども役立ちました。

笠井委員

学校教育の中の図書館教育の支援について児童や職員も喜んでいますが、今はコロナで、ほとんどの学校でおはなし会や読書ボランティアなど各種活動を見合わせている状況ですが、一日も早くコロナが終息して、各種の活動が充実していければいいと思っています。

福田委員

コロナの影響で昨年度は職場体験学習ができない状況がありました。来年度にはできるようになることを期待しています。今後受け入れ先を探すことも大変になってくると思いますので、可能な状況になれば図書館での受け入れをお願いしたいと思います。今年度から中学校では一人1台タブレットを持つということで4月からスタートし、授業のあり方が変わってきています。学校図書館も、今までの情報センターとしての役割や今後のあり方について検討していかなければならないと考えています。市立図書館についても社会の変化に対応していく必要があると思います。

卜藏委員

資料の16ページの移動図書館車のところに子育て支援センターに乳幼児用文庫を配本とありますけれども、私は市内の子育て支援センターや子育てサークルをよく訪問していますが、先日福米東のパンダクラブを訪問した時に、エプロンシアターがあったので聞いてみたら市立図書館から借りているということでした。また地域の子育てサークルに行くと、主任児童委員さんからも「市立図書館から借りている絵本です。」と聞くことがあります。もう少しいろいろなところで情報提供があれば、もっと地域の子育てサークルにも本を借りることができるということがわかってもらえるのではないかと思います。乳幼児期から本に出会えることは大事なことでと思いますので、もっと絵本を通じて、読み聞かせや選書相談に乗ったりしてほしいと思います。

坂口委員

私が所属しています国際ソロプチミスト米子は、長年ソロプチミスト文庫として本を寄贈しています。選書は市立図書館にお任せしていますが、本は地元の書店から買っているということで、さきほど地元書店との連携という話がありましたが、すばらしいことだと思いました。

渡邊会長

最後に皆さんから一言ずつお話をいただきましたので、以上で米子市図書館協議会を閉会いたします。